

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「主張と事例の関係をとらえ、自分の考えを伝え合おう」 教材名「笑うから楽しい / 時計の時間と心の時間 / 【情報】主張と事例」

2 単元の目標

原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。（〔知識及び技能〕(2)ア）

事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。（C(1)ア）

事例と主張の関係から要旨を捉え、時間の受け止め方への考えをもつ学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（C(1)ア）	①事例と主張の関係から要旨を捉え、時間の受け止め方への考えをもつ学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

事例と主張の関係から要旨を捉え、時間の受け止め方への考えをもつ。この教材では、事例と主張の構成図、要旨と意見を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

例が何を示すためのものかを説明させる。原因と結果を本文が述べる範囲で捉え、医学的な効果へ広げない。想定する難しさは、自分の時間感覚の話だけになり、文章の主張を捉えない。評価では、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握しているかを、事例と主張の構成図、要旨と意見と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。単元の終わりに残す記録を確認、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3	○事実として示す内容、経験例、書き手の意見を分け、主張へつながる関係を図にする。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確認める活動）
第3次	4～6 （本時）	○事実として示す内容、経験例、書き手の意見を分け、主張へつながる関係を図にする。文章全体の要旨をまとめてから、自分が納得した点や疑問を根拠付きで述べる。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	7	○選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導（4／7）

（１）本時の目標

事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。（C(1)ア）

（２）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「この事例とこの事例は、主張のどんな点を説明していますか」 【めあて】事例と主張の関係から要旨を捉え、時間の受け止め方への考えをもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・楽しい時の経験だけで主張を全部説明してよいか確かめたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 （ 分）	○「この事例とこの事例は、主張のどんな点を説明していますか」 事実として示す内容、経験例、書き手の意見を分け、主張へつながる関係を図にする。文章全体の要旨をまとめてから、自分が納得した点や疑問を根拠付きで述べる。 選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・楽しい時の経験だけで主張を全部説明してよいか確かめたい。 ・要旨と感想は分ける。	例が何を示すためのものかを説明させる。原因と結果を本文が述べる範囲で捉え、医学的な効果へ広げない。 想定する難しさ：自分の時間感覚の話だけになり、文章の主張を捉えない。 評価では、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握しているかを、事例と主張の構成図、要旨と意見と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ （ 分）	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 事例と主張の構成図、要旨と意見を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・要旨と感想は分ける。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この事例とこの事例は、主張のどんな点を説明していますか」。中央は、事例と主張の構成図、要旨と意見に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

